

2023年3月期～2025年3月期

第14次中期経営計画

成長を求め、挑戦を楽しむ企業へ



株式会社 **植木組**

第13次中期経営計画の振り返り

連結ベース

(億円)

| | 第12次 | 第13次中期経営計画 | | |
|-------------------|------|------------|----------------|------------|
| | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 |
| 売上高 | 445 | 519 | 488 | 476 |
| 営業利益 | 16.5 | 23.6 | 25.4 | 22.9 |
| 親会社に帰属する 当期純利益 | 10.6 | 14.3 ※2 | 17.0 上場来最高益 | 14.4 ※1 |
| ROE(%) | 5.3% | 6.7% | 7.4% | 6.0% |

グループ一丸となった原価低減活動の推進、生産性の向上により、前(第13次)中期経営計画の3カ年において、親会社に帰属する当期純利益が上場来過去最高水準を記録しました。

※1：上場来2番目の利益 ※2：上場来3番目の利益

企業理念

明日を創造 常に挑戦 一緒に感動

長期ビジョン

UEKI VISION 150

成長を求め、挑戦を楽しむ企業へ

顧客創造への挑戦／技術開発への挑戦／育成加速への挑戦

重点テーマ

営業力強化

お客様の期待に応える価値を提供するとともに、事業領域の深耕と拡大を狙う

技術力強化

生産性向上を目指し、ICTなど建設新技術の更なる活用とDXを促進する

人財力強化

人財育成と採用強化とともに、働きやすさと働きがいのある職場環境づくりに取り組む

企業価値の向上

中期経営計画

当社は、まもなく創業140年を迎える老舗企業ですが、その歴史は挑戦の連続でした。ものづくりの伝統を継承しつつ、先進的に新技術や新領域に挑戦することにより成長を遂げてきました。そして、これからも150年企業を目指し、楽しみながら挑戦を続けていきます。新たに策定しました「UEKI VISION 150」にはそのような意味が込められています。

営業力強化

お客様の期待に応える価値を提供するとともに、事業領域の深耕と拡大を狙う

- ・優位性ある事業領域への深耕と拡大
- ・既存顧客における当社シェア拡大
- ・有望分野への積極的進出
- ・ブランディング戦略の構築
- ・ソリューション提案営業力の強化
- ・営業人材の育成、強化

技術力強化

生産性向上を目指し、ICTなど建設新技術の更なる活用とDXを促進する

- ・保有建設技術の活用とブラッシュアップ
- ・全社一丸となった建設DXの推進
- ・技術提案力の強化
- ・業務提携や産学連携等による協業体制構築
- ・新技術や技術開発に係る人材育成の促進

人財力強化

人材育成と採用強化とともに、働きやすさと働きがいのある職場環境づくりに取り組む

- ・UEKI DNAの伝承
- ・次世代技術者の育成加速
- ・社員全体の能力・スキルの底上げ
- ・全社をあげた新卒、キャリア採用の強化
- ・多様な人材が能力を発揮できる環境や制度の整備

企業価値の向上

重点テーマには「営業力強化」「技術力強化」「人財力強化」を掲げました。

ESGなど設備投資が見込まれる優位性ある事業領域の受注拡大に積極的に取り組みます。また、ICTをはじめとした建設新技術の更なる活用とDXを促進し技術力を強化します。そのほか、戦略的な成長投資として人材育成の強化も図ります。営業力強化・技術力強化・人財力強化とともに、ガバナンスの強化を図り、企業価値の向上を目指します。

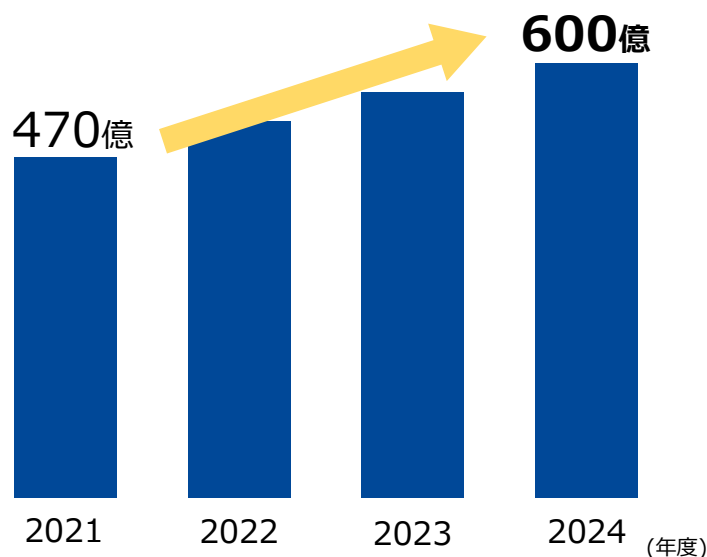
第14次中期経営計画

スローガン

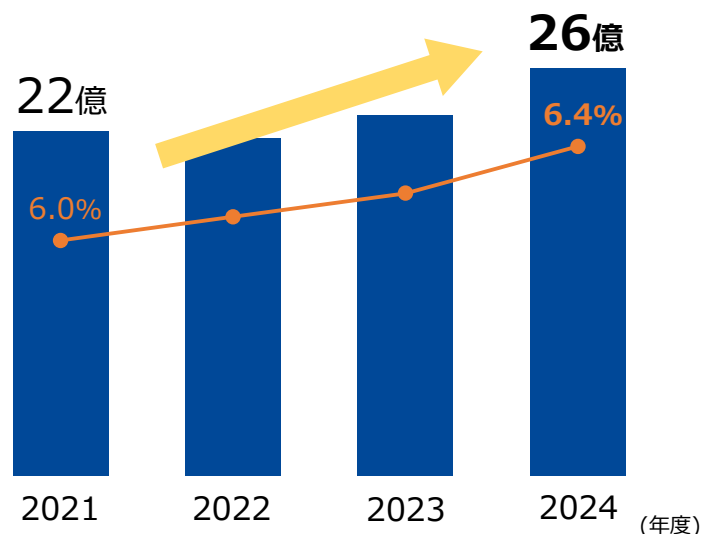
成長を求め、挑戦を楽しむ企業へ

第14次中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）を策定しました。
スローガンは、2022年度を長期ビジョンの達成に向けた新たなスタートの年と定め、
長期ビジョンと同様に「成長を求め、挑戦を楽しむ企業へ」としました。

売上高



営業利益



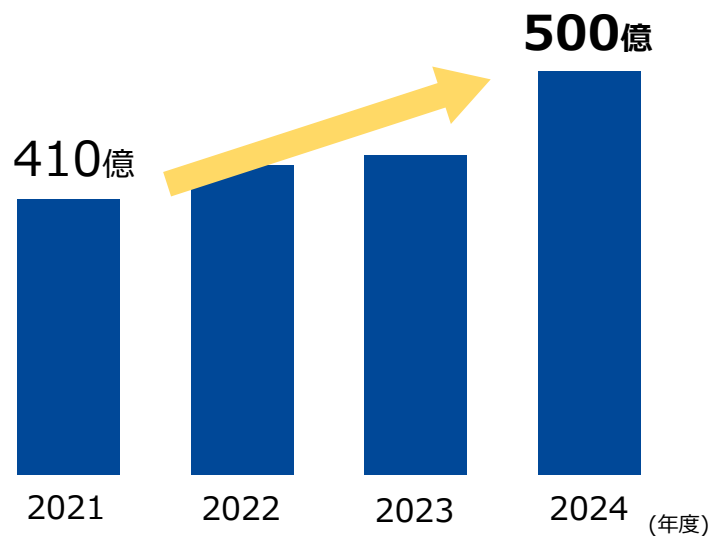
470億円 → 3年後 → 600億円

営業利益 : 22億円 → 3年後 → 26億円
営業利益率4.3%

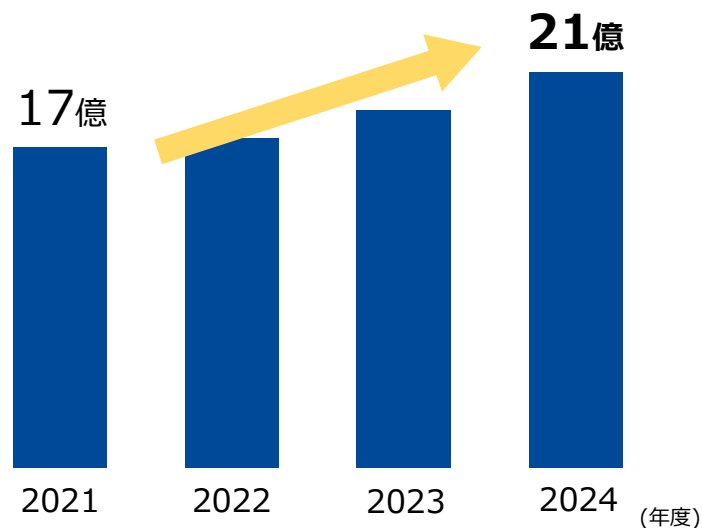
ROE : 6.0% → 3年後 → 6.4%

第14次中期経営計画最終年度には、グループとして売上高600億円、営業利益26億円（営業利益率4.3%）、ROE6.4%を目指します。

売上高



営業利益



410億円 → 3年後 → 500億円

17億円 → 3年後 → 21億円
営業利益率4.3%

第14次中期経営計画最終年度には、植木組単体として売上高500億円、営業利益21億円（営業利益率4.3%）を目指します。



キャッシュインは、事業活動を通じた収益性の向上により、営業キャッシュ・フローを3カ年累計で45億円以上と見込んでおります。

キャッシュアウトは、中長期的観点から持続的成長に向けた投資として、営業キャッシュ・フローの50%程度を環境対策や設備投資、新技術開発に充てます。

また、採用や社員教育といった人的資本への成長投資も促進します。



株主還元については、配当性向30%を目安に長期的かつ安定的な配当を目指します。

ESG/SDGs・サステナビリティ経営[※]への対応

ESGやSDGs、サステナビリティ経営への対応がより強く求められる社会に。
サステナビリティ基本方針を策定し、マテリアリティ(重要課題)を特定しました。

【サステナビリティ基本方針】

当社は、大地と海と都市空間に、豊かで潤いある人間環境を創造するため、企業活動を通じて、
安心・安全で持続可能な社会の実現に貢献するとともに、持続的な成長を目指します。

| ESG | マテリアリティ (重要課題) | 関連するSDGs |
|---------|--|--|
| E 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷の低減 ○環境保全への貢献 |        |
| S 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ○安心・安全で住みやすいまちづくり ○品質の維持と向上 ○労働安全の確保 ○人的資本や知的財産への投資等 ○働きやすい職場環境づくり |          |
| G ガバナンス | <ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンスの徹底 ○リスクマネジメントの強化 |    |

※サステナビリティ経営とは「ESG、SDGsを意識しながら持続的に成長する経営」のこと



株式会社 植木組

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。